



# Emergency Watch

発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

## 神戸こども初期急病センター

 2012年7月受診者数：2664人

### 訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

1. 発熱 : 1855人 (1507人)
2. 咳 : 778人 (198人)
3. 嘔吐 : 518人 (156人)
4. 鼻汁 : 507人 (8人)
5. 発疹 : 276人 (211人)

### 疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 1378人  
(ヘルパンギーナを含む)
2. 感染性胃腸炎 : 353人
3. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 134人
4. じんま疹 : 84人
5. 気管支炎・肺炎 : 82人



## 今月のワンポイント！

梅雨明けと同時に暑い夏が来て夏休みが来ましたね。毎日暑い日が続きますが、水分・塩分摂取など熱中症対策などはできていますか？

7月の受診者数は2664人と先月に比べ777人増加しています。そのうち発熱が1855人とやはり最も多く、先月より大分と増加しているようです。原因はプール熱、ヘルパンギーナ、手足口病といわれるいわゆる「夏風邪」というウイルス性の風邪が本格的に流行しだしたことが考えられます。ヘルパンギーナや手足口病では喉に口内炎のような水疱がのどに沢山できるので、のどが痛くて食べ物を飲み込みづらいお子さんが沢山おられました。夏風邪は2、3日の経過で特にお薬をのまなくても自然に治りますが、やはり熱・風邪には水分摂取が大切です。最初は痛くても、しばらく水分摂取をトライしているうちに、喉の痛みはやわらぎますので、口当たりの良いゼリーやシャーベットでもいいですので、こまめに水分をとるようにしましょう。また、夏風邪は熱が高く出る傾向があり、ときにはひきつけを起こすことや、髄膜炎になることもしばしばみられます。ぐったりしていないか、嘔吐や頭痛など他の症状がないか、お子さんの様子をしっかりと観察してあげるようにしましょう。また先月からの台風や梅雨の影響もあり喘息発作や気管支炎、肺炎など咳の症状を訴えた方も778人と比較的多かったようです。一方ノロウイルスやロタウイルスなどの腸管感染症はやや減少傾向のようです。ただこの中には食中毒も含まれている可能性があります。夏場は食べ物の保存や加熱に特に気を付けましょう。また、風疹や麻疹などが例年に比べ日本で流行しているようです。1歳の誕生日になったら必ずワクチンを受けて、乳幼児で流行しないよう気を付けましょう。

